

事業報告書

事業名

うごいてつくってなりきって体験ワンダーランド IN 青梅



1 実施団体

特定非営利活動法人子どもと文化の NPO 子ども劇場西多摩

2 担当課

社会教育課

3 実施時期

平成 30 年 9 月 6 日及び平成 30 年 10 月 13 日

4 参加者

市内在住親子及び小学生・中学生・高校生・大人 84 名

5 実施場所

下長淵第二第四自治会館

6 事業の目的

現在、文化芸術活動による地域再生が強く全国的にも求められています。特に児童青少年の活性化は地域の大人たちの希望となり、地域で障がいのある人、児童青少年、女性、高齢者まで全ての人を包括できる文化芸術活動は、地域を活性化し、全ての人を元気にしてくれます。私たちは子どもから広げ、障がいのある人、女性、高齢者等全ての人を巻き込んだ文化芸術活動を通して、青梅市の共生社会実現に向けた芸術文化プロジェクトを企図しました。実施場所を下長湊自治会館にした理由は、自治会館を多世代交流センターにしていきたい思いから、「子どもステーション」を実施している実績が当法人にあり、子ども達が自身で来ることのできる場所で、地域に住む乳幼児連れの親子からお年寄りまでが参加できる取り組みとして行いたいからです。

本事業では、3名のアーティストによる、アート体験活動を行い、参加者は一日を通じて2つのアート体験ができます。デジタルがこれだけ広がっている中、リアルな人との出会い、魅力的なアーティストとの出会いができるアナログな交流の世界を届け、地域に住む人々が「顔見知り」になり、文化体験を通じたコミュニケーションを広げることを目的としました。

7 役割分担

- ・ 団体の役割

体験ワンダーランド IN 青梅の企画・運営・実施

- ・ 担当課の役割

広報・学習会の参加者受付・当日受付・記録

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

今回実施場所を下長湊第二第四自治会館にすることで、特に下長湊地域における社会課題（地域におけるコミュニケーション不足、面識社会の広がり不足）を、アート体験を実施することにより、解決のひとつになる取り組みを行うことができました。1日を通じて84名の参加者があり、3名のアーティストによるコミュニケーションを促すアートプログラムの中で、知らない人とも目と目を合わせたり、トイレットペーパーでできた

森を探検するなど、楽しみながら地域に住む人々が「顔見知り」になり、文化体験を通じたコミュニケーションを広げることにつながりました。また、下長洲地域に関わらず、今子ども達の間でデジタルな体験がこれだけ広がりスマホに保育をさせてしまう時間が増えている中で、リアルな人との出会い、魅力的なアーティストとの出会いができ、親子と一緒に体を動かし、目と目を合わせるアナログな交流の世界を届けることができたことの意義が大きくありました。

9 目標達成

事業の目標：・体験ワンダーランドへの参加者を定員いっぱいにして多くの方と本事業の楽しさを体験し、地域の人々がつながることを目指します。

- ・また多世代交流センターのひとつのモデル事業として行い、地域づくりの実績をつくります。
- ・ボランティアスタッフを当法人以外にも募集し、学び、当日を迎えることで、文化事業を通じた人づくりに取り組みます。

目標の達成具合：

- ・各体験定員 20 名×3 体験×2 回（午前午後）でのべ 120 人の体験者を目標としていたところ、のべ体験人数合計 155 名となり、地域の体験者を広げるという目標を、大きく達成することができました。
- ・多世代交流センターのモデル事業としても、地域の 0 歳から 60 代までが集まり、面識社会を広げることができました。昼食時にカレーを提供し、大きな和室で一緒に同じご飯を食べるという交流も、体験ワンダーランドと相まって良い効果をもたらしました。
- ・ボランティアスタッフ募集の結果、当法人以外のボランティアスタッフの参加が 4 名ありました。また日頃子どもステーションに関わるスタッフも若い世代であり、なぜこのような取り組みが地域課題解決に役に立つのか、改めて学ぶことで深めることができました。

10 事業の実施内容

平成 30 年 9 月 6 日

「体験ワンダーランド説明会 & 学習会」

* 文化活動の意義・体験ワンダーランド実施の意義を学ぶ

講師 森本真也子氏（子ども文化地域コーディネーター協会）

参加者 19 名 * 別途当日資料添付

平成 30 年 10 月 13 日

「うごいて つくって なりきって 体験ワンダーランド IN 青梅」

* 3 組のアーティストによる 3 つのアート体験を午前・午後の 2 回ずつ実施。3 つの体験のうち参加者は 1 日を通して 2 つの体験に参加する。

体験名/講師

からだで表現あそび 楠原竜也/近藤理恵

トイレットペーパーの森 中根久寧/小林真利子

忍者アクション 石田武/仙波恵理

プログラム

10:00~10:30 オープニング 今日できる 3 つの体験を紹介

10:30~12:00 アート体験①

からだで表現あそび 参加者 27 名

トイレットペーパーの森 参加者 24 名

忍者アクション 参加者 27 名

12:00~13:00 ランチタイム カレーで大昼食パーティー

13:00~14:30 アート体験②

からだで表現あそび 参加者 28 名

トイレットペーパーの森 参加者 27 名

忍者アクション 参加者 22 名

14:30~15:00 エンディング 今日行った 3 つの体験をシェア

15:00~15:45 片付け・講師スタッフ振り返りまとめ

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
(3)協働の役割分担は適切だった	4	3
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	3	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	3
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

青梅市長淵地区という小さい単位の地域密着型で実施することにより、地域社会により働きかけることができるということを、今回の取り組みで実証できたように感じています。文化・アートというものが、一部の愛好者のためのものでなく、より良い市民社会の醸成に役立つものとして、今後このような活動が青梅市の各地域で展開できたらと考えました。

また今回協働事業として取り組むことで、青梅市のツイッターでの広報をしてくださったからこそつながった若い世代のボランティアスタッフもありました。また協働事業で行うことにより、文化体験で広がるコミュニケーションの実態・効果を、市の担当課、地域住民、ボランティア、当法人スタッフと広く共に感じ合えることができたように思います。様々ご協力頂き、協働事業として非常に有意義な活動になりましたこと感謝申し上げます。

13 その他

今回の事業は市民提案協働事業として、私ども市民の側から「事業」を提案し、実施させて頂きました。今後青梅市の「協働事業」として考えた

とき、社会課題を共にみつけ、何を実施すべきなのか行政と市民が考え合い実行に移すような協働の形での事業も創っていただけると考えました。